

形のない骨

ミシミシと、キシキシと、
心が死んでゆく音。
聞こえないふりをした。

安東清子 高田紀子 杉尾 夢 田中準也 熊谷太志 ジョーイシカワ 渡邊ちえ
撮影：安岡洋史 照明：根岸謙 録音：阿尾茂毅 音楽：徳澤青弦 美術：松本慎太郎 ヘアメイク：木戸友子 コンボジット：上之郷朋彦 助監督：荒木孝真
演出助手：泉優次郎 制作：長門麟太郎 制作助手：竹之下愛莉 制作会社：teevee graphics ポスター：今永政雄
監督・脚本・編集：小島淳二 配給：エレファントハウス

2018年／日本／104分／アメリカンヴィスタ／カラー／5.1ch

© teevee graphics, inc



心の優しい一人の女性が、
 どうしたらこんな悲劇に
 耐えられるだろう？

世界が注目するCM界の“女性美の魔術師” 満を持して映画監督デビュー！

TSUBAKIやマキアージュなど、資生堂のCMを長年にわたって手がけ、〈女性美の魔術師〉と呼ばれる小島淳二。2007年には、第57回ベルリン国際映画祭短編コンペティション部門に、日本作品として31年ぶりに出品され話題を呼んだ注目のクリエイターだ。『形のない骨』は、彼が企画から立ち上げ、5年の歳月をかけて挑んだ映画監督デビュー作。これまで切り取ってきた女性の華やかな瞬間とは真逆となる〈人間の内面〉がじっくりとあぶり出されていく。

九州開催のオーディションで200人の中から選ばれた役者たちが、3ヶ月に及ぶワークショップと1ヶ月の稽古を経てクランクイン。福岡県糸島市の一軒家を中心に撮影され、自宅、火葬場、病院、そこで働く人々もできうる限り“本物”を使うことで、見る人誰もが自分の人生に置き換えられるようなリアルな世界観を作り上げた。

格差社会から生まれる一般家庭の貧困や希薄な人間関係、女性蔑視の問題…。しだいに追い詰められていくひとりの女性の壮絶な人生を通して、家族とは、人間の優しさとは何かを問いかける『形のない骨』。理性的であることを求められる現代に生きるすべての人たちに贈りたい人生賛歌だ。

STORY

34歳の良子は画家の夫、姑、小学生の息子とともに、地方都市の一軒家で静かに暮らしていた。しかし、一見平穏に見えるその生活は、刺々しい姑の態度、闇の商売に手を染める夫の暴力にうんざりする日々。彼女が心を通わせるのは弟・圭人と、息子の宏だけだ。ある日彼女は、夫を思いがけない事件により失ってしまう。失った愛に苦しみ追い詰められた良子が取った行動とは…。

『形のない骨』2018年／104分／アメリカンヴィスタ／カラー／5.1ch

配給：エレファントハウス

<http://katachi-nai-movie.com>

© teevee graphics, inc



暖昧な感情を徒らに濾過せず暖昧なまま差し出してくれる挑戦的な映画でした。

だからこそその果てにある水の清明さにハッとさせられる。

『形のない骨』とはなんだろう、と思った。その骨が支える体はなんなのだろう。形のない骨とはいつも困った顔をして受け身でいるヒロインかもしれない。しかしそのヒロインによってギリギリ成り立つ家族の不思議。考えてみたら僕らの人生はあちこち形のない骨だらけだ。

深田晃司／映画監督

観ていくうちに、どんな人間にも潜んでいる悪の部分のうすら怖さにぞわぞわしてきた。

観客に、お前はどんな人間だ？と小島淳二監督は問いかけているのだろう。

アートに見識のある人がニヤニヤしちゃう仕掛けも入っていたりして、憎いなあ、と思いました。

秋山具義／アートディレクター

7月28日(土)から 全国順次ロードショー
 ★初日舞台挨拶、その他トークイベントを予定！
 (特別前売鑑賞券発売中 ¥1,400)

渋谷・文化村前交差点左折

ユーロスペース

EUROSPACE

tel.03-3461-0211 www.eurospace.co.jp